

## 7. 歯科のない医療介護施設と地元歯科医師会との 連携強化を目指したツールに関する研究

- 内田 信之（原町赤十字病院 副院長兼第1外科部長）
- 島村 修（吾妻郡歯科医師会会長）
- 平形 浩喜（吾妻郡歯科医師会前会長）
- 飯塚みゆき（原町赤十字病院 NST ディレクター）
- 永井多枝子（原町赤十字病院 NST 前ディレクター）

### 【研究の目的】

本邦で医科歯科連携推進が叫ばれて久しいが、全国の一般病院の中で歯科が存在するのは15%程度でしかない。したがって歯科のない医療施設が医科歯科連携を目指すのであれば、必然的に地域歯科医師会の協力が必要となってくる。群馬県西北に位置する吾妻郡は、面積の広さゆえに県内の2次医療圏の一つとなっているが、人口については6万人を下回る山間過疎地である。この地域の中核病院である原町赤十字病院も、標榜する診療科は18を数えるが歯科は存在しない。

原町赤十字病院では平成17年より様々な方法で医科歯科連携を進めており、論文、学会等を通じ、数多くの報告をしてきた経緯がある。今回の研究の目的は、吾妻地域内の医療介護施設が医科歯科連携をより強力に行うためのツールを開発し活用すると同時に、学会発表や誌上発表などを通して公表することである。

### 【研究計画】

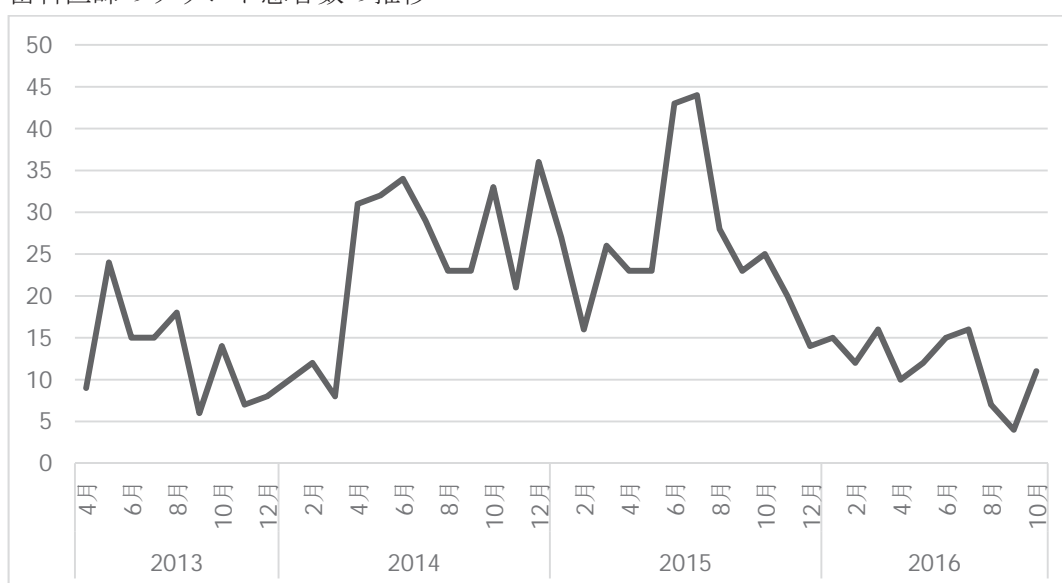
1. 歯科医師による原町赤十字病院入院患者（現在までに延べ700名以上）の口腔内アセスメント結果の調査
2. 原町赤十字病院外科入院患者の口腔内の問題の実態把握
3. 吾妻地区内の他の医療介護施設、訪問看護施設での患者の口腔内問題発生時の実態調査
4. 上記1, 2, 3の結果をもとに、本研究の関係者間で医科歯科連携に必要なツールを検討
5. 地元歯科医師会を中心に、医科歯科連携を推進するため、および口腔ケアの基本手技を学ぶためのセミナーの開催
6. 上記1, 2, 3, 4, 5の内容をまとめた上で、学会発表や誌上発表を行う

【実施内容・結果】

1. 歯科医師による原町赤十字病院入院患者の口腔内アセスメント結果（計 720 名）

外科		635 名
	手術前	83 名
	手術後	433 名
	化学療法前	33 名
	化学療法中	67 名
整形外科		75 名
その他		10 名

歯科医師のラウンド患者数の推移



2. 原町赤十字病院外科入院患者の口腔内の問題の実態（手術施行者のみ）

		悪性 (n=213)	良性 (n=88)	全体 (n=301)
衛生状態	良好	24.9%	21.6%	23.9%
	普通	36.2%	47.7%	39.5%
	不良	38.0%	29.5%	35.5%
歯の状態	なし	26.3%	25.0%	25.9%
	あり	73.7%	75.0%	74.1%
歯のある方で	良好	42.0%	51.5%	44.8%
	う歯あり	49.7%	47.0%	47.5%
	動揺歯あり	15.3%	15.2%	15.2%
	両者合併	6.4%	7.6%	5.0%

歯肉の状態	良好	55.4%	46.6%	52.8%
	所見あり	44.6%	53.4%	47.2%
	炎症あり	26.3%	26.1%	26.2%
	歯石あり	27.2%	38.6%	30.6%
	両者合併	8.9%	12.5%	12.5%
義歯	義歯あり	61.5%	61.4%	61.4%
	義歯のある方で 適合問題あり	29.8%	37.0%	37.0%
口腔内乾燥	なし	59.6%	62.1%	60.3%
	軽度	31.5%	28.9%	31.0%
	高度	8.9%	8.0%	8.7%
口腔内に問題なし		22.5%	23.9%	22.9%

外科手術患者の80%近くが、口腔内に問題を抱えていた

### 3. 吾妻地区内の他の医療介護施設、訪問看護施設での患者の口腔内問題発生時の実態（病院3施設、介護施設3施設、訪問看護ステーション1施設 計7施設の結果の抜粋）

- 設問1 口腔内に問題を抱えている患者（利用者）がいるか？ あり：86%
- 設問2 口腔内に問題がある方には歯科受診を勧めているか？ 100%
- 設問3 モニタリング帳票を記入しているか？ はい：14% ある程度：86%
- 設問4 口腔ケア用品を正しく使用できているか？ はい：14% ある程度：86%
- 設問5 口腔ケア時に口腔内観察ができていないか？ はい：71% ある程度：29%
- 設問6 義歯の問題(痛み、破損)を確認できるか？ はい：86% ある程度：14%
- 設問7 スタッフ間で口腔内の情報共有ができていないか？ はい：17% ある程度：83%
- 設問8 地域で統一した口腔ケアシステムは必要か？ ぜひ：86% できれば：14%

### 4. 医科歯科連携に必要なツールの作成

#### ①「My Oral Diary」の作成（添付） A5版 計18ページ

自分の口腔内については、自分自身で毎日観察ができる場所であるにも関わらず、正確に把握している人は健常者にとっても少ないのではないかと考える。このDiaryは、自分の口腔内に関心を持ってもらうこと、そして口腔ケアの重要性を理解し歯の健康維持を守るために作成した。内容は、口の中の働き、口の中の働きが低下するとどうなるか、また歯周病が全身に与える影響などの簡単な説明に加え、口腔内の自己チェックのページ、医療介護施設の職員がチェックするA-OAGの評価ページ、歯科医師や歯科衛生士が記入できるページなどが含まれている。さらに吾妻郡内の歯科診療所の一覧を掲載した。最も重要

なポイントは、3分以内で口腔内の基本的なアセスメントを可能とし、しかも歯科医師への受診の判断を容易とした「Agatsuma Oral Assessment Guide (A-OAG)」を導入したことである。まずは病院や介護施設に入院、入所している患者や利用者を中心に活用を始める予定である。

## ②「Agatsuma Oral Assessment Guide (A-OAG)」の普及を目的としたDVD作成（約6分）（添付）

誰でもすぐにできる口腔アセスメントとして、私たちは「A-OAG」というものを開発した。これは Eilers Oral Assessment Guide で示された口腔内の評価8項目（声、嚥下、口唇、舌、唾液、粘膜、歯肉、歯と義歯）に加え、意識レベルと歯磨きの自立度を含めた計10項目を定めスコア化し、吾妻版のOAGとして新規に開発したものである。それぞれ正常をスコア1、軽度の異常をスコア2、重度の異常をスコア3として合計点数で評価する。10項目としたことで点数の計算が容易である。10点は異常なし、11~14点は軽度の異常、15点以上は重度の異常として歯科受診を勧めるものとした。この特徴は3分以内で行うことができること、医療施設でも介護施設でも行えること、繰り返し行うことができることの3点である。また15点以上を歯科受診としたことで、医療介護者が歯科受診を勧めるべきかの目安をわかりやすくした。

## 5. 吾妻医科歯科連携推進カンファレンスの開催（案内パンフレット添付）

日時：平成28年11月26日 土曜 14:00~16:30

場所：群馬県中之条町ツインプラザ

参加者人数：37名

## 6. 学会発表や誌上発表について

今回の研究内容については、共同研究者の飯塚みゆきにより、平成29年2月22-23日に横浜市で開催される、第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会で発表予定である。

また研究代表者により、今年度中にしかるべき雑誌の誌上発表を行うため、投稿予定である。

### 【考察と今後の課題】

今回、「My Oral Diary」と「Agatsuma Oral Assessment Guide (A-OAG)」の普及目的のDVDを作成したことで、歯科のない医療介護施設でも3分以内で口腔アセスメントができ、さらに歯科受診の判断を容易とするツールを作成することができた。今後はこのツールを十分に利用し、原町赤十字病院だけでなく、吾妻地域内の医療介護施設すべての医科歯科連携をより一層勧める予定である。

超高齢化社会を迎えた現在、多くの高齢者は何らかの疾患や障害を抱えながら生きていく。自分らしく最期まで生きていくためには、自分の口の中を大切にし、食べたいものを食べることのできる環境を保つことが重要である。今回開発したツールは、この命題に対する重要な一助となると考えている。

今回開発したツールについては様々な機会を利用して報告する予定である。その結果、全国の多くの地域で医科歯科連携が進むことを期待している。

#### 7. 経費使途明細

開催費（カンファレンス1回開催・会場使用料 講演料・茶菓子代・弁当代）	44,365円
事業費（封筒代・小冊子作成・DVD作成）	190,944円
会議費（会議6回開催 弁当代）	31,800円
通信費（切手代）	25,526円
消耗品費（文具、コピー用紙他）	7,365円
合 計	300,000円
大同生命厚生事業団助成金	300,000円